東京外国語大学国際日本研究センター対照日本語部門
第２回研究会（2010 年 7 月 3 日）

接続形式の分化をめぐって

益岡隆志（神戸市外国語大学）
masuoka@gold.ocn.ne.jp

要旨

日本語の連用複文構文は接続形式が多様である。なかでも注目されるのが「接続形式の分化」である。「接続形式の分化」とは、基本となる形式からそれに特定の要素を組み込んだ別の形式が分化することをいう。本発表では、接続形式の分化に該当すると見られる中立形接続とテ形接続という類義形式、及び原因理由を表すダケニとダケアッテという類義形式の振る舞いを観察することにより、接続形式の分化というものの有りようを考察する。

１　はじめに

関心のありか

構文の意味研究と複文研究の交差するところ

日本語の複文構文

連用複文構文と連体複文構文

◇連用複文構文(predicate-modifying complex constructions)

（１）　短時間労働で成果が上がれば納得してもらえる。（朝日新聞 2010/06/07）

（２）［[…述語 - 接続形式］…述語］

◇連体複文構文(noun-modifying complex constructions)

（３）　関西を舞台にした作品が多い。（朝日新聞 2010/06/07）

（４）［[…述語 - 名詞］…述語］

本発表の考察対象：連用複文構文における接続形式とその意味

2　接続形式の分化

連用複文構文における接続形式の多様性

◇接続形式の分化

特徴づけ

（5）a　基本となる形式B（「ベース形式」と仮称）からそれに要素αを組み込んだ形式Bα（「発展形式」と仮称）が分化する

b　ベース形式に萌芽的に存在する特性を発展形式によって明示的に表す

c　発展形式の形態に簡略化（縮約）が見られる

益岡（1997, 2007）

条件形式（バ形式）の分化

ベース形式（レバ形式）と発展形式（タラ(バ)形式・ナラ(バ)形式）の分化

本発表の目標：接続形式の分化を他の事例を通して一般化

◇中立形接続とテ形接続の分化（益岡（準備中 a））

◇原因理由を表すダケニとダケアッテの分化（益岡（準備中 b））

3　中立形接続とテ形接続の分化

3．1　中立形接続構文とテ形接続構文

動詞述語の接続構文

中立形接続とテ形接続という 2 つの類義形式

（6）　毎朝、15 分刻みの予定を<u>組み</u>、優先順位を<u>つけて</u>上司や同僚にメールで送ってください。（朝日新聞 2010/06/07）

動詞の中立形とテ形（cf. 渡辺（1971）、城田（1998）、益岡（2000））

中立形：名詞的性格

テ形：中立形に「テ」を組み込む

３．２　両構文の異同

◇中立形接続構文：節を列挙する構文（単純並列の構文）

（７）　その生涯は謎のベールに包まれ、近年ではその実在にさえ疑問が呈されている。（インフォペディア編「飛鳥・大和・奈良 古代史の謎を巡る旅」）

動的な事態の場合、語用論的に連用関係（継起・因果）を表す用法が派生

（８）　卑弥呼の宮殿を思わせる大きな建物群跡が発見され、畿内説を勢いづかせた。（同上）

◇テ形接続構文：テの組み込みによる連用関係の明示

連用関係の意味領域：並列・時間・論理(因果)・様態

⇒テ形接続は連用関係接続の汎用型

（９）　駅前に白いビルがあって、そのビルの１階に銀行がある。

（10）　手を洗って、おやつを食べた。

（11）a　悲しい話を聞いて、涙がこぼれ落ちた。

b　参加者は、幹事を入れて８人だ。

c　悪事を見て見ぬふりをする。

（12）a　立っておしゃべりをした。

b　タクシーに乗って駅まで行った。

［注：（９）～（12）は日本語記述文法研究会編（2008）より］

並列・継起・因果の場合

◇並列

単純並列では中立形接続が優先（cf. 久野（1973）、新川（1990））

（13）　太郎はよく｛勉強し／？勉強して｝、よく遊ぶ。（久野（1973））

（14）　スタミナをつけ、各部の筋力をアップし、肉体的にも心理的にもはずみをつけ、志気を高めていく。（村上春樹「走ることについて語るときに僕の語ること」）

（15）　京の都にオニが飛び交い、鹿が人間の言葉を話し、紅に染まる大阪城に男たちが集結する。（朝日新聞 2010/06/07）

◇継起

(16)　よく｛考えて＞考え｝お返事します。

◇因果

テ形接続構文では状態的な事態でも因果関係が成立

(17)　海からの風が吹きわたり、シャツにしみた汗が冷えて、おそろしく寒い。(村上春樹「走ることについて語るときに僕の語ること」)

３．３　接続形式の分化

両構文の関係

(18) ベース形式の中立形と発展形式のテ形の分化

中立形（ベース形式）：単純並列関係を表す、さらに、連用関係を表す用法が萌芽的に存在する

テ形（発展形式）：中立形接続において萌芽的に存在する連用関係を「て」の組み込みにより明示し、連用関係表示の汎用型を形成する

４　原因理由を表すダケニとダケアッテの分化

４．１　ダケニ構文とダケアッテ構文

「ダケニ」「ダケアッテ」という２つの類義形式（cf. 中畠（1995）、前田（2009））

◇ダケニ構文

(19)　原因がまるでわからないだけに、僕としてはひどくつらかった。(村上春樹「村上朝日堂はいかにして鍛えられたか」)

(20)　講義はちんぷ平凡に思われ、物理学というものに大きなあこがれを感じていただけにそれは大変な幻滅であった。(朝永振一郎「科学者の自由な学園」)

(21)　期待が大きかっただけに失望も大きいと言わざるをえません。(亀山郁夫「大学に未来を」)

(22)　私は、完全に忘れ去られたと考えていただけに、まだ私のことを念頭においてくれている編集者がいたことに感謝の念をいだいた。(吉村昭

「私の文学漂流」）

(23)　百十数冊の同人雑誌の小説からとりあげられただけに、内容というよりはその題材が多岐で、地方地方にはいろんな話があるものだと興味が湧く。（松本清張「渡された場面」）

◇ダケアッテ構文

(24)　洛陽の街区はさすがに大唐の二つの都の一つだけあって、日本の留学僧たちの眼にはまばゆかった。（井上靖「天平の甍」）

(25)　さすがに、卒業論文や卒業実験に取り組もうとする学年だけあって、いろいろと有益な意見や要望を出してくれました。（田坂憲二「大学図書館の挑戦」）

(26)　ミシガン大学は、. . . 自らを中西部のハーバードと称するだけあって、優秀な教授陣と学生を全米に誇っている。（藤原正彦「若き数学者のアメリカ」）

(27)　俳人の一茶は、信州のような高山国に育っただけあって、青空を賛美した句には現代の信州歌人と同様にしばしば名作を残している。（新村出「語源をさぐる」）

(28)　（津田正生は）名古屋の人だけあってよく見きわめているものと思い、敬服した。（金田一春彦「愛・三・岐県境付近の方言境界線について」）

ダケニ構文の意味

事態のスケール性に基づく前件と後件の比例関係

前件に見合う後件という比例関係（cf. フィルモア（1989））

事態間の比例関係にスケール測定がかかわることから、語用論的に評価を表す用法が派生。

(29)　さすがに郷土史をやっていらっしゃるだけに詳しいですね。（松本清張「陸行水行」）

(30)　（武田は）昨季のＮＨＫ杯では３位になった実力者だけに、他の追随を許さなかった。（朝日新聞 2009/02/01）

４．２　ダケアッテ構文と評価

ダケアッテ構文の意味

事態のスケール性に基づく前件と後件の比例関係

当該の事態を積極的に評価する（プラスに評価する）という意味特性

ダケアッテは「ダケノコトハアル」という形式に由来

(31)　信子は、そうは思えなかった。さすがに専門家だけのことはある。文章は、ある場面の写生ふうなものだが、そのわずか六枚にも心が吸いこまれるような魅力があった。（松本清張「渡された場面」）

(32)　さすが医者だけのことはあって、この医療器具は数も種類も多かった。（加賀乙彦「小暗い森」、「『現代日本語書き言葉均衡コーパス』モニター公開データ（2009 年度版）」（国立国語研究所）による）

「Ｘダケノコトハアル」（「Ｘだけ＋の＋こと＋は＋ある」）の構成的意味

「Ｘというスケールの事態が存在する」ことを取り立て助詞「は」の組み込みにより特立する

当該のスケールの事態が特立に値するものであるということから、当該の事態を積極的に評価する（プラスに評価する）という意味特性が語用論的に派生（cf. 森山（2010））。

特立の「は」

(33)　フォーム改良のために何人か水泳のコーチについたのだが、なかなか「これは」という人には巡り合えなかった。（村上春樹「走ることについて語るときに僕の語ること」）

４．３　接続形式の分化と評価構文の成立

両構文の関係

(34) ベース形式ダケニと発展形式ダケアッテの分化

ダケニ（ベース形式）：事態のスケール性に基づく前件と後件の比例関係を表す、さらに、評価を表す用法が萌芽的に存在する

ダケアッテ（発展形式）：事態のスケール性に基づく前件と後件の比例関係を表す、そして、ダケニ構文において萌芽的に存在する評価性を「は」の組み込みによって明示する

ダケアッテ構文

評価性の明示により、「評価構文」とでもいうべき構文のイディオム性が生じる（cf. 益岡（近刊））

XハPダケアッテQ

〈主題Xがかかわる P（従属節の事態）と Q（主節の事態）を因果的に関係づけることを通して X を評価する〉という構文レベルの意味が実現

(35)　こうして二か月で三つの中心的な問題が一つの山脈の形できわめて明りょうになったので、三月からこの山脈を登ろうとかかった。しかし、さすがに未解決として残っているだけあって随分むずかしく、最初の登り口がどうしてもみつからなかった。（岡潔「春宵十話」）

5　おわりに

連用複文構文における接続形式の分化

ベース形式に萌芽的に存在する特性を発展形式により明示する

日本語からの問題提示

◇ベース形式と発展形式の分化という図式

◇連用関係の意味領域と汎用型

◇評価性と評価構文

参考文献

内丸裕佳子（2006）「動詞のテ形を伴う節の統語構造について」『日本語の研究』2-1、日本語学会.

菊地朗（2008）「修飾」『英語学モノグラフシリーズ 5 巻：叙述と修飾』研究社.

久野暲（1973）『日本文法研究』大修館書店.
城田俊（1998）『日本語形態論』ひつじ書房.
新川忠（1990）「なかどめ」言語学研究会編『ことばの科学４』むぎ書房.
坪井美樹（2010）「現代日本語を知るための日本語史研究―動詞テ形・タ形の成立をめぐって」砂川有里子他編著『日本語教育研究への招待』くろしお出版.
日本語記述文法研究会編（2008）『現代日本語文法第６巻：複文』くろしお出版.
フィルモア、C. J.（1989）「「生成構造文法」による日本語の分析―試案」久野暲・柴谷方良編『日本語学の新展開』くろしお出版.
堀江薫&プラシャント・パラデシ（2009）『言語のタイポロジー』研究社.
中畠孝幸（1995）「ダケニとダケアッテ―通念依存の形式―」『日本語類義表現の文法（下）』くろしお出版.
前田直子（2009）『日本語の複文』くろしお出版.
益岡隆志（1997）『複文』くろしお出版.
益岡隆志（2000）『日本語文法の諸相』くろしお出版.
益岡隆志（2007）『日本語モダリティ探究』くろしお出版.
益岡隆志（近刊）「N ノコトダカラ構文の意味分析」『事象タイプの記述研究』くろしお出版.
益岡隆志（準備中 a）「中立形接続とテ形接続の分化」
益岡隆志（準備中 b）「複文研究と文法論・語用論の接点」
森山卓郎（2010）「価値と接続」*KLS 30*. 関西言語学会.
渡辺実（1971）『国語構文論』塙書房.
渡辺実（2002）『国語意味論』塙書房.
Ariel, M.（2008）*Pragmatics and Grammar*. Cambridge University Press.
Blakemore, D. and R. Carston（2005）“The pragmatics of sentential coordination.” *Lingua* 115.
Comrie, B. and S. A. Thompson（2007）“Lexical nominalization.” Shopen, T. (ed.) *Language Typology and Syntactic Description III*. Cambridge University Press.
Croft, W.（2001）*Radical Construction Grammar*. Oxford University Press.
Dixon, R. M. W. and A. Y. Aikhenvald（2009）*The Semantics of Clause*

Linking. Oxford University Press.

Hasegawa, Y. (1996) *A Study of Japanese Clause Linkage*. CSLI Publications and Kurosio Publishers.

Hopper, P. J. and E. C. Traugott (eds.) (2003) *Grammaticalization*. Cambridge University Press.

Myhill, J. and J. Hibiya (1988) "The discourse function of clause-chaining." Haiman, J. and S. A. Thompson (eds.) *Clause combining in Grammar and Discourse*. John Benjamins.

Shopen, T. (ed.) (2007) *Language Typology and Linguistic Description II*. Cambridge University Press.